



工学部長記者懇談会(5月)

日時:5月16日(木) 10:30~12:00 100周年記念会館

【発表事項】

(1)10:30~10:50

資料1

ひらめき☆研究ライフ

発表者:学術研究院 教授 成田 克 (ナノテク・材料 / 応用物性)

(2)10:50~11:10

資料2

地域と学生をつなぐバスツアー開催

～学生が米沢を調査し、SNSで報告する「米沢オモシロ調査隊」～

発表者:学術研究院 教授 落合 文吾 (化学・バイオ工学)

化学・バイオ工学科 4年 今野 理香

化学・バイオ工学科 4年 重村 実里

(3)11:10~11:30

資料3

全日本学生弓道王座決定戦への挑戦

発表者:山形大学弓道部 主務 小野寺 廉

【通知事項】

(4)11:30~

資料4

山形大学米沢キャンパス×置賜総合支庁

「県営林を実習フィールドにした人材育成」に係る覚書を締結

(5)11:40~

第74回国立大学工学部長会議・総会について

資料5

5月23日・24日に山形大学工学部が主催で開催

【次回開催予定】

6月13日(木) 10:30~12:00(管理棟2階ミーティングルーム・応接室)

【2024年度 工学部学部長記者懇談会開催予定】

7月11日（木） 10：30～12：00

（管理棟2階ミーティングルーム・応接室）

8月22日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

9月12日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

10月10日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

11月14日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

12月12日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

1月16日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

2月13日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

3月13日（木） 10：30～12：00（中示範C教室）

令和6年（2024年）5月16日

地域と学生をつなぐバスツアー開催 ～学生が米沢を調査し、SNSで報告する「米沢オモシロ調査隊」～

【本件のポイント】

- 昨年内閣府のコンテストで複数の賞を受賞した大学生と地域のイノベーターをつなぐバスツアー「米沢オモシロ調査隊」を2024/6/2に実施
- 米沢の伝統工芸の体験と様々なスポット巡りを、参加者が調査隊員となっていながら、地域の方々との繋がりを作る
- 山形大学と米沢女子短期大学の学生が、米沢市と連携してバスツアーの内容を企画



▲昨年度実施したバスツアーの様子

【概要】

学園都市推進協議会が主催する大学生と地域のイノベーターをつなぐバスツアー「米沢オモシロ調査隊」を6月2日に実施する。本ツアーは、従来も米沢に初めてきた大学生に米沢を知ってもらうことを目的に行われてきたが、大日本印刷株式会社サービスデザイン・ラボと連携した工学部の講義である「サービスデザインによる社会課題解決」から生まれた大学生達のアイデアを元に、従来の観光中心型から、人とのつながりを重視する内容へ昨年リデザインされた。参加者は、一日調査員となって、米沢のオモシロいヒト・モノ・コトを調査し、SNSに調査結果を上げていく。午前、午後とも各4コースに分かれて1つずつのアクティビティを体験する。午前中は伝統工芸（原方刺し子、お鷹ぼっば、紅花染め、成島焼）、午後は里山暮らし体験、農業体験、東町めぐり、小野川温泉でのサウナ体験を予定。参加対象者は、三友堂看護専門学校、山形大学工学部、米沢栄養大学、米沢女子短期大学の学生。

【背景】

多くの大学生が県外、更には米沢市外の出身であり、米沢で知っている人、ことの範囲は限定的である。また、卒業時には多くが県外、市外に転出し、その後は米沢市との縁が切れてしまうケースも多い。これらの解決に向け、学生生活では知り難い米沢を知るとともに、米沢との関わりを深めるためのバスツアーを実施する。

【内容】

山形大学工学部の講義「サービスデザインによる社会課題解決」で学生から出されたアイデアに端を発した「米沢オモシロ調査隊」を6月2日に実施する。対象は、三友堂看護専門学校、山形大学工学部、米沢栄養大学、米沢女子短期大学の学生で、今年米沢に来た人でなくても参加可能。参加者は、各コースのアクティビティを体験し、それをSNSで報告することで、他のコースの情報も共有しながら、米沢を深く知ることができる。企画・運営には、山形大学、米沢女子短期大学の学生達が携わっている。

この産学官連携での地域活性化の手法は、内閣府地方創生推進室主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト2023」にて、大学生以上・一般の部の優秀賞、東北経産局長賞、企業賞1件を受賞した。<https://contest.resas-portal.go.jp/2023/prize.html>

今年の申込みは、やまがたe申請米沢市電子申請サービスから可能で、締切は5月19日。

配布先：工学部長記者懇談会参加報道機関

【今後の展望】

米沢の面白さを知るとともに、地域のイノベーターとの関わりをすることで、卒業後も米沢に縁を持ち続けられる関係人口を増やすことを狙う。これにより、人口増加と活性化に貢献するものと期待される。

お問い合わせ

学術研究院教授 落合文吾（化学・バイオ工学分野担当）

TEL 0238-26-3092 メール ochiai@yz.yamagata-u.ac.jp

<米沢市>

学園都市推進協議会事務局 地域振興課 若者支援担当 西辻尚子

TEL 0238-22-5111 メール wakamono-t@city.yonezawa.yamagata.jp

令和6年（2024年）5月16日

全日本学生弓道王座決定戦への挑戦

【本件のポイント】

- ・他大学や高校の弓道部と交流しながら選手の経験不足を解消！
- ・公式大会で団体個人問わず多くの入賞を獲得！
- ・山形大学弓道部男子・女子両者の部でⅠ部リーグに到達！



【概要】

山形大学弓道部は東北地区大学体育大会、全日本学生弓道選手権大会、東北地区秋季学生弓道大会に参加し数多くの戦績を残してきました。特に今年度は、女子がⅡ部リーグで優勝したことでⅠ部リーグに昇格し、男女共に東北学生弓道におけるⅠ部リーグに進出することができました。

したがって、部の最高目標である全日本学生弓道王座決定戦の出場を男女両方の部で目指すことが可能となりました。王座決定戦に男女揃って出場は、調べた過去 30 年の記録にはなく、叶えば山形大学弓道部史上最大級の快挙となります。

また、王座決定戦出場に向けて山形大学弓道部は他大学や近隣の高校の弓道部との交流を行い、対面試合の機会を積極的に作り選手の技術やメンタルの向上に役立ててきました。

これからも部内で一丸となって一歩ずつ目標の王座決定戦出場に歩みを進めていきます。

【戦績】

令和 5 年

- ・ 4 月 東北学生弓道大会
男子団体決勝準々決勝進出 女子団体準決勝進出
- ・ 5 月 東北地区大学体育大会
男子団体第 3 位
- ・ 8 月 全日本学生弓道選手権大会
男子団体決勝トーナメント進出
- ・ 10 月 東北地区秋季学生弓道大会
女子Ⅱ部リーグ優勝 男子Ⅰ部リーグ 3 位
- ・ 12 月 東北学生弓道新人戦
団体トーナメント 優勝&準優勝

令和 6 年

- ・ 5 月 春季東北学生弓道大会
男子団体の部 優勝



配布先：工学部長記者懇談会参加報道機関

【他校との合同練習・練習試合】

令和5年

- ・4月 東北大学
- ・6月 弘前大学、福島大学、東北学院大学
- ・8月 強化合宿（山形市）
- ・9月 秋田大学、岩手大学（オンライン）

令和6年

- ・2月 山形南高校
- ・3月 東北大学 弘前大学 春合宿（蔵王）



お問い合わせ

山形大学弓道部

メール yamadai.kyudo0625@gmail.com

令和6年4月30日
置賜総合支庁

報道機関 各位

山形大学米沢キャンパス×置賜総合支庁 「県営林を実習フィールドにした人材育成」に係る覚書を締結

国立大学法人山形大学米沢キャンパスと置賜総合支庁は、令和6年3月14日に「県営林を実習フィールドにした人材育成」に係る連携・協力に関する覚書を締結しましたのでお知らせします。

記

1 目的

県産木材の利用拡大を推進するためには、木材利用の大半を占める建築分野における木材利用を拡大していく必要があります。そのためには建築に関わる設計・建築士に木材の役割や大切さを理解いただき、積極的に木材利用を提案、デザイン、設計いただくことが重要です。

そうした中、置賜総合支庁管内には、木造建築分野を一つの柱として建築士などの人材を育成する山形大学工学部建築・デザイン学科があり、当学科に対し実践的な学びの機会を提供することで学生の木材に対する関心と理解を深め、木材に精通し積極的に活用する建築士等の育成に寄与し、県産木材の利用拡大につなげることを目的に本覚書を締結いたしました。

2 連携の内容

置賜総合支庁森林整備課所管の三沢県営林（所在地：米沢市大字入田沢地内、面積：423.67ha）を現地実習フィールドとして国立大学山形大学米沢キャンパスに提供するとともに、実習の企画運営に対する支援（機械貸与、指導者派遣など）を行います。

3 令和6年度実習計画

時期：令和6年秋

内容：植林（スギ苗等の植え付け）

問合せ先

産業経済部森林整備課

課長補佐（林政企画） 細谷一彦

T E L 0238-26-6063

報道監 総務企画部長 佐々木秀徳

山形県置賜総合支庁と国立大学法人山形大学米沢キャンパスとの
「県営林を実習フィールドにした人材育成」に係る連携・協力に関する覚書

山形県置賜総合支庁（以下「甲」という。）と国立大学法人山形大学米沢キャンパス（以下「乙」という。）は、「山形県と国立大学法人山形大学との包括連携協定書」第2条第3号に基づき、次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第1条 本覚書は、甲と乙が相互の緊密な連携と協力により、甲が所管している県営林を実習フィールドとして乙が使用し、建築士等の人材育成に寄与することを目的とする。

（連携・協力内容）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、次の各号について連携し協力する。

- (1) 甲が所管する三沢県営林（米沢市大字入田沢地内）を現地実習フィールドとして乙が使用すること。
- (2) 乙が実施する実習の企画運営に対する支援（企画立案、実習に要する資機材等の貸与、指導者の派遣等）に関すること。
- (3) 乙に所属する学生の木材に対する関心と理解を深めることによる木材に精通し積極的に活用する建築士・技術者の育成に関すること。
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（協議事項）

第3条 甲と乙は、本覚書に基づく連携・協力の具体的内容その他必要な事項について、その都度協議して定めるものとする。

（守秘義務等）

第4条 甲と乙は、本覚書に基づく活動において、相手方より知り得た秘密事項について、本覚書の有効期間中はもとより有効期間終了後も秘密を厳守し、本覚書の履行以外の目的に利用し、又は如何なる第三者に対してもこれを開示し、又は漏洩してはならない。
ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。
なお、個人情報の取扱いについては、おのれの倫理審査に基づき管理する。

（有効期限）

第5条 本覚書の有効期限は、本覚書締結の日から令和8年3月31日までの期間とする。
ただし、その間の連携・協力内容の評価を行い、甲と乙の合意により、1年間延長できることとし、その後も同様とする。

（その他）

第6条 本覚書に定めのない事項又は本覚書に定める事項に関し疑義等を生じた場合は、甲乙協議して、これを解決するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、それぞれ1通を保有する。

令和6年3月14日

甲 米沢市金池7丁目1番50号

山形県置賜総合支庁

支庁長 星 里 香 子



乙 米沢市城南4丁目3番16号

国立大学法人山形大学米沢キャンパス

米沢キャンパス長 黒 田 充 紀





山形大学工学部と山形県置賜総合支庁との連携について (建築・デザイン学科へ実習フィールドとして県営林の提供)

1 目的

県産木材の利用拡大を推進するためには、木材利用の大半を占める建築分野における木材利用を拡大していく必要がある。そのためには、施主の理解も大切であるが、建築に関わる設計・建築士が木材の役割や大切さを理解し積極的に木材利用を提案、デザイン、設計することが重要なポイントとなる。

置賜総合支庁管内には、建築士などの人材を育成する山形大学工学部建築・デザイン学科があるが、当学科では木造建築分野を一つの柱とすることで他大学との差別化を図っている。このことから、当学科に対して大学近隣の県営林を森林・林業・木材産業に対する理解を深めるための実習フィールドとして提供し、そこで学ぶ学生の木材に対する関心と理解を深めることによって、木材に精通し積極的に活用する建築士等の育成に寄与しようとするものである。

2 連携の内容

置賜総合支庁森林整備課所管の三沢県営林（米沢市大字入田沢地内）を現地実習フィールドとしての提供及び実習の企画運営に対する支援（企画立案、実習に要する機械の貸与、指導者の派遣など）

3 連携の方法

山形大学と県が締結している包括連携協定（令和5年2月17日締結）第2条（連携事項）第2項に基づき大学と県で合意形成のうえ連携するものとする。なお、県では県営林の事務は総合支庁所掌としているため、合意形成は山形大学米沢キャンパス長（工学部長）と置賜総合支庁長間で覚書を取り交わす形で行う。

4 実習内容の具体的検討

(1) 三沢県営林の概要

面積 423.67ha

土地所有者 一般財団法人 田沢自彊会

県営林内の樹種 スギ、カラマツ、ヒノキ、広葉樹各種

(2) 三沢県営林で出来ること（森づくり活動：具体的な案）

① 植林（スギ苗等の植付）学生自ら実施可能

② 造林地の保育作業

学生自ら実施可能：下刈り、除伐、枝打ち、つる切り、雪起こし

森林組合等が実施する施業を見学：間伐、主伐

③ その他

- ・ 森林整備や地域材利用に関する学習
- ・ 歩道整備（開設、木チップ敷き等）
- ・ キノコ栽培（林地内を利用して行う）

（３） 三沢県営林から産出した木材の利用

間伐、主伐により収穫した木材を乾燥、製材して木工品や木造施設を製作（e. g. 山大工学部キャンパス校舎内の内装木質化）

（４） 実習の指導者

置賜総合支庁森林整備課（若しくは森林整備課から派遣される協力員）

（５） 実習に必要な機材

刈り払い機、下刈り鎌、枝打ち鋸、チェーンソー等主なものは森林整備課で準備可能。重機等林業機械が必要な場合は応相談。

6 その他

- ・ 置賜「地材地住」ネットワークと山形大学工学部との連携に関する協定締結

締結年月日 平成 29 年 7 月 26 日

協定に基づく取組み 地域材利用セミナーの開催

○参考 森づくり活動（造林、保育、収穫等）の具体的手法等

（１） 植林の標準的な方法

① 植付ける苗木について

- ・ スギ・アカマツ・カラマツ・ブナ・ナラを主体とする。
- ・ スギ 1800 本／ha～ ・ アカマツ 3000 本／ha～
- ・ カラマツ 1900 本／ha～

② 地拵え及び植栽について

- ・ 地拵え方法は、灌木類・笹等は出来るだけ地際より伐倒又は刈払いする。
- ・ 植付、保育作業の支障とならないように筋置き等により整理する。
- ・ 植栽時期は、春又は秋植とする。（適期に植付ける。）

（２） 植栽地保育の標準的な方法

① 下刈りについて

- ・ 実施時期 6 / 中旬～8 月上旬
- ・ 実施期間 2 年生～8 年生まで（1 回刈／1 年）
※植栽木の成長を見て判断する。
- ・ 実施時期 春～秋（5 月～11 月 条件の良い時期に行う。）
- ・ 実施期間 13 年生～19 年生（1 回～2 回）
※植栽木の成長を阻害する進入木等の状況を見て判断する。

③ 枝打ちについて

- ・ 実施時期 秋～春（11 月～3 月）
- ・ 実施時期 13 年生～19 年生（1 回～2 回）
20 年生～30 年生（1 回～2 回）
※植栽木の成長休止期を見て判断する。

④ つる切りにについて

- ・ 実施時期 春～秋（5 月～11 月 条件の良い時期に行う。）
- ・ 実施期間 つる類の繁茂状況に応じて下刈りや除伐と併せて行う。

⑤ 間伐について（スギ林分収穫予想表 多雪・豪雪 2500 本植第 18 表）

- ・ 実施時期 春～秋（5 月～11 月 条件の良い時期に行う。）
 - ・ 実施期間
- | | | | | |
|-------|-------|-----------|------|-----|
| 14 年生 | 主林木本数 | 2441⇒2300 | 間伐本数 | 141 |
| 17 年生 | 主林木本数 | 2254⇒2000 | 間伐本数 | 254 |
| 26 年生 | 主林木本数 | 1874⇒1600 | 間伐本数 | 274 |
| 33 年生 | 主林木本数 | 1532⇒1300 | 間伐本数 | 232 |
| 41 年生 | 主林木本数 | 1252⇒1000 | 間伐本数 | 252 |
| 51 年生 | 主林木本数 | 970⇒800 | 間伐本数 | 170 |
- ※間伐は、林分の成長状況を見て判断する。

（３） 収穫

① 主伐

- ・ 適期に伐採する。
※ 標準伐期齢はスギ 50 年、カラマツ 40 年だが、林分の状況を見て判断する。

山形県と国立大学法人山形大学との包括連携協定書

山形県（以下「甲」という。）と国立大学法人山形大学（以下「乙」という。）とは、相互の連携を強化することについて、次のとおり包括連携協定（以下「協定」という。）を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が相互の緊密な連携と協力により、それぞれ有する人的・物的・知的資源を有効に活用して、真の豊かさと幸せを実感できる地域社会を形成することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携、協力する。

- （1）地域創生を担う人材の育成・確保に関すること
 - （2）農林水産業の振興・活性化に関すること
 - （3）産業経済の振興・活性化及びイノベーションの創出に関すること
 - （4）国際化・国際交流の推進に関すること
 - （5）保健・医療・福祉・子育てに関すること
 - （6）デジタル技術の普及・活用・開発によるDXの推進に関すること
 - （7）歴史・芸術文化・自然等の地域資源の保全・活用に関すること
 - （8）環境の保全・創造に関すること
 - （9）その他、県民の幸せ向上につながる取組みに関すること
- 2 前項各号に定める事項を効果的に推進するため、甲と乙は定期的に協議を行うものとする。また、具体的な実施事項については、甲及び乙が合意の上、決定する。
- 3 甲及び乙は、連携事業等の具体化を図るため、必要がある場合には、本協定の目的に即して、特定の事項に関する覚書等を作成することができる。

（守秘義務）

第3条 甲及び乙は、本協定に基づく活動において、相手方より知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について相手方との間において守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（協定の変更等）

第4条 本協定の履行に関して特別の事情が生じた場合は、甲及び乙が協議の上、本協定を変更することができるものとする。

(有効期間)

第5条 本協定は、協定締結の日から発効し、有効期間は2年間とする。ただし、本協定書の有効期間満了の日から2か月前までに甲又は乙から申し出のないときは、さらに2年間更新するものとし、その後も同様とする。

(疑義の決定)

第6条 本協定に定めのない事項及び本協定に関して疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上、決定する。

本協定の締結を証するため、本協定書を2通作成し、それぞれ1通を保有する。

令和5年2月17日

甲：山形県知事

吉村 美栄子

乙：国立大学法人山形大学長

玉手 英利

以下の取組みには、現在実施中の取組み、今後の連携が想定される取組み、これから検討を実施する取組みが含まれます。

〔項目1〕 地域創生を担う人材の育成・確保に関すること

- ・自治体におけるデジタルを利活用できる人材育成のための教育プログラムの検討
- ・山形大学の講義に県職員を講師として派遣

〔項目2〕 農林水産業の振興・活性化に関すること

- ・スマート農業技術の研究開発（スマート農業の実証、人工知能（AI）の活用等）
- ・青果の保蔵技術の開発など農林水産物の生産技術等に係る連携推進

〔項目3〕 産業経済の振興・活性化及びイノベーションの創出に関すること

- ・山形大学の研究シーズを活かした新たな事業展開の検討
- ・女性の就業支援インターンシッププログラムの作成・監修・運営支援
- ・地域課題の解決に向けた研究開発（克雪等）

〔項目4〕 国際化・国際交流の推進に関すること

- ・外国人留学生の受入拡大に向けた連携
- ・外国人留学生を対象とした県内企業見学会（バスツアー）の開催等による県内定着促進

〔項目5〕 保健・医療・福祉・子育てに関すること

- ・将来を見据えたライフデザイン形成を支援する学生向けライフデザインセミナーの開催
- ・若者の自殺防止に係る研究等自殺対策の推進

〔項目6〕 デジタル技術の普及・活用・開発によるDXの推進に関すること

- ・データに基づく政策立案、事業推進への協力
- ・自治体におけるデジタルを利活用できる人材育成のための教育プログラムの検討

〔項目7〕 歴史・芸術文化・自然等の地域資源の保全・活用に関すること

- ・本県の子神文化や自然等の地域資源を活用した観光振興への協力
- ・学生による文化財の価値や魅力の情報発信

〔項目8〕 環境の保全・創造に関すること

- ・樹氷復活・オオシラビソ再生に向けた連携
- ・2050年の脱炭素社会を担う若者の育成、脱炭素社会に向けた研究成果の共有

〔項目9〕 その他、県民の幸せ向上につながる取組みに関すること

令和6年（2024年）5月16日

第74回国立大学工学部長会議・総会について

【本件のポイント】

- 国立大学工学部長会議を米沢市のグランドホクヨウを会場に開催します。
- 山形大学工学部が当番大学で開催されるのは56年振り。

【概要】

第74回国立大学工学部長会議について、5月23日（木）、24日（金）に米沢市のグランドホクヨウを会場として開催されます。

山形大学工学部が当番大学として開催するのは第18回（昭和43（1968）年）以来56年振りです。
全国から64大学75学部の工学部長及び事務担当者合計148名が一堂に会します。

【国立大学工学部長会議について】

国立大学及び公立大学の工学系75学部で組織されています。毎年1回総会を開催し、工業教育の改善及び発展を図ることを目的としています。

山形大学工学部では、第18回（昭和43年5月30日～31日開催 会場：山形銀行米沢支店）以来56年振り当番大学となり、主催します。

【日程】

日時：令和6年5月23日（木）・24日

場所：グランドホクヨウ

スケジュール

<5月23日（木）> 14：00開始 17：00終了予定

- ・学長挨拶
- ・文部科学省所管事項説明
- ・議事（協議事項）

<5月24日（金）> 9：00開始 10：30終了予定

- ・議事（要望事項、承合事項）

・旧米沢高等工業学校本館見学ツアー 11：00 ～ 12：00

【取材について】

・5月23日（木）14：00からの学長挨拶に限り公開します。取材を希望する場合は、13：50までにグランドホクヨウ1階ロビーにお集まりください。

・5月24日（金）の旧米沢高等工業学校本館見学の様子を公開します。取材を希望する場合は、10：55までに山形大学工学部正門付近にお集まりください。

お問い合わせ

米沢キャンパス事務部総務課 小野

TEL 0238-26-3005 メール yu-koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp